

～親子ではぐくむネットモラル～

家庭で話そう！ネットいじめの現実と対策

「ネットいじめ」と聞くと、どこか遠い世界の話に感じるかもしれません。しかし、スマホやSNSが日常に溶け込んだ今、子どもたちはいつでも、どこでも、誰かの言葉に傷つく可能性があります。しかも、ネット上のいじめは目に見えにくく、気づいたときには深刻化していることも少なくありません。

ネットいじめの特徴は、匿名性と拡散力です。悪意あるコメントや画像が一瞬で広まり、消すことが難しいため、被害者の心に長く残ります。また、加害者も「軽い冗談のつもりだった」「みんながやっていたから」と罪の意識が薄いまま加担してしまうケースもあります。

保護者としてできることは、まず「ネットいじめは現実には起きている」という認識を持つことです。そして、子どもが安心して話せる環境をつくることです。「何かあったら話してね」と日頃から声をかけておくことで、子どもは困ったときに保護者を頼りやすくなります。

また、家庭でネットの使い方やマナーについて話し合う時間を持つことも大切です。「人を傷つける言葉は、画面の向こうにも届く」「見て見ぬふりも加担になる」といった価値観を共有することで、子ども自身が加害者にも被害者にもならない力を育てられます。

学校や行政も対策を進めていますが、家庭での対話こそが、子どもを守る最前線です。ネットいじめは、家庭で一緒に考え、向き合うべき現代の課題。まずは今日、子どもと「ネットで嫌なことがあったらどうする？」と話してみませんか。

デジタルタトゥーとは？子どもの未来を守る投稿の責任

「デジタルタトゥー」という言葉をご存じでしょうか？これは、インターネット上に一度投稿された情報が、半永久的に残り続けることを指します。まるでタトゥーのように消すことが難しく、将来にまで影響を及ぼす可能性があるのです。特に子どもに関する投稿は、保護者のちょっとした行動が、本人の人生に思わぬ影響を与えることもあります。

たとえば、幼い頃の写真や動画をSNSに投稿することは、成長の記録として微笑ましいものです。しかし、本人の同意なく公開された情報が、後に本人の恥ずかしさや不快感につながることもあります。さらに、名前や学校名、習い事の場所などが含まれていると、個人情報の漏えいや犯罪のリスクにもつながりかねません。

また、子ども自身が投稿した内容も、将来の進学や就職に影響する可能性があります。過去の発言や写真が検索され、評価の対象になる時代です。だからこそ、保護者は「投稿の責任」を意識し、子どもにその重要性を伝える必要があります。

家庭でできることは、まず「投稿前に確認する習慣」をつけること。「この写真は誰が見る？」「本人はどう感じる？」といった視点を持つことで、無意識のリスクを減らせます。また、子どもが自分で投稿する際にも、「一度ネットに出したら消せない」という意識を持たせることが大切です。

インターネットの便利さの裏にあるリスクを理解し、慎重な発信を心がけることで、子どもの安心と可能性を守ることができます。まずは今日、家庭で「投稿のルール」について話し合ってみませんか。